

在満日本人向けラジオ放送が伝える日常と非日常

—生活放送と実況放送が作り出す中心と周縁

代 珂

本稿は在満日本人向けの日本語放送（第一放送）のコンテンツに対して検証を行った。

まず日常生活におけるラジオ（天気予報、入港時刻の知らせ、年末年始のリレー放送）と実況放送（野球の実況中継、地方・民族文化を紹介する放送）に焦点を当て、在満日本人の日常生活とラジオについて考察した。そして、防空演習の放送を取り上げ、ラジオは在満日本人にとって日常と非日常が時々入れ替わってしまう異様な時空間であったことを指摘した。

一方、ラジオは満洲国の周縁的要素を強調していたことと、中心としての日本へ帰還する在満日本人の心理について、年末年始のリレー放送、スポーツ放送および文化的放送を通して考察し、そこに存在する「中心と周縁の矛盾」という問題を指摘した。

以上の論証を通じて本稿はこれまでの第一放送に対する考察の空白を埋めるとともに、ラジオがメディアとして示したさまざまな位相を明らかにした。